

Revised, 2/2/2004

日本企業の構造転換 Corporate Structural Transformation in Japan

神戸大学経済経営研究所、IMF アジア太平洋地域事務所共催
協力：関西社会経済研究所

2004年2月16日(月)
場所：ポートピアホテル、神戸
時間：午前 10:00 から午後 5:45

ワークショップの目的

活発な企業活動に裏打ちされた日本経済の持続的回復は、グローバル経済の安定的発展に不可欠である。本ワークショップは、現在進行中の企業部門の構造転換、新しい付加価値創造の取り組みをよく認識し、またこれまで低迷が長期化した経緯を踏まえ、企業部門が今後さらに構造転換を進めていくための課題、必要な政策処方箋を探る。企業家、学者、リサーチャー、政策担当者、IMF スタッフからなる参加者がラウンドテーブル形式で議論を展開する。

予定プログラム

- | | | |
|-------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 10:00 a.m. – 10:10 a.m. | 開会の辞: | 西島章次氏
所長
神戸大学経済経営研究所 |
| 10:10 a.m. – 11:20 a.m. | セッション I : 企業部門の構造変化の現状 | |
| | 座長: | 新庄浩二氏
教授
神戸大学大学院経済学研究科 |
| 10:10 – 10:25 | 報告: | 木村公昭氏
ディレクター
アビームコンサルティング株式会社 |
| 10:25 – 10:40 | 報告: | 根津利三郎氏
常務理事
富士通総合研究所 |

10:40 – 11:00	コメント	ピーター・グリーン氏 公使 イギリス大使館 荒井信幸氏 調査部長 日本政策投資銀行
11:00: – 11:20	全体討論	
11:20 a.m. – 11:35 a.m.	休憩	
11:35a.m. – 12:45 p.m.	セッション II : 関西の中小・中堅企業の経験	
11:35 – 12:20	パネル報告 モデレーター:	宮尾龍蔵氏 教授 神戸大学経済経営研究所
	パネル報告者:	赤澤洋平氏 代表取締役社長 (株)システクアカザワ
	パネル報告者:	丸山武勇氏 代表取締役常務 (株)大阪繊維リソースセンター
	パネル報告者:	小山浩史氏 調査グループ長 日本銀行大阪支店
12:20 – 12:45	全体討論	
12:45 p.m. - 2:15 p.m.	昼食	講演: 久保田勇夫氏 ローンスタージャパン会長

2:15 p.m. – 3:30 p.m.

セッション III：1990年代の企業部門低迷の分析

座長: クリス・ウォーカー氏
シニアエコノミスト
国際通貨基金・アジア太平洋地域事務所

2:15 – 2:35

報告: 「債務、研究開発投資と技術進歩：日本の製造業企業のパネル分析」
小川一夫氏
教授
大阪大学社会経済研究所

2:35 – 2:55

報告: 「日本の地価下落と生産性低下：マクロ経済的な視点」
宮尾龍蔵氏
教授
神戸大学経済経営研究所

2:55 – 3:05

コメント: 関根敏隆氏
経済調査課調査役
日本銀行調査統計局

3:05 – 3:30

全体討論

3:30 p.m. – 3:45 p.m.

休憩

3:45 p.m. – 5:30 p.m.

セッション IV：将来へ向けて - 課題と政策対応

座長: サウル・リゾンド氏
次長
国際通貨基金・アジア太平洋局

3:45 – 4:00

報告: 「デフレ克服と銀行への公的資金注入」
小林慶一郎氏
研究員
経済産業研究所

4:00 – 4:15	報告:	「日本の不振企業の再活性化」 新原浩明氏 コンサルティングフェロー 経済産業研究所 (経済産業省情報経済課長を併任)
4:15 – 4:30	全体討論	
4:30 – 4:45	報告:	Financial Markets and Policy to Further Promote Corporate Restructuring /企業再生 の更なる促進の為の金融市場と金融行政 大橋一成氏 シニア・エコノミスト 国際通貨基金・国際資本市場局
4:45 – 5:00	報告:	Structural Reforms to Transform the Japanese Economy/日本経済の転換へ 向けた構造改革 斎藤潤氏 内閣府大臣官房参事官
5:00 – 5:30	全体討論	
5:30 p.m. – 5:45 p.m.	議論総括:	
	閉会の辞:	日野博之氏 所長 国際通貨基金・アジア太平洋地域事務所

記:

午前の議論は日本語中心、午後の議論は英語中心で行う。同時通訳付。
後日、会議の概要をまとめた報告書を作成する。